

学びの“イマ”を伝える理工学部報

from here

集い、つながり、変革を共創する。



コラム

生まれる力を、
AIが見抜く

トピックス

- ・「未来のコモンセンス」を創る博士人材の育成：Keio-SPRINGの挑戦
- ・ホームカミングデーについて
- ・大学院改組による新専攻体制と研究ユニットについて など

「ひとが集い、産学が連携する場所」が育む
共創イノベーション

2025年4月に竣工したYagami Innovation Laboratory(YIL)。

教育プログラムを通じた学生の創造性の育成や沖縄科学技術大学院大学(OIST)との連携とともに、

慶應義塾の科学・技術の知を広く社会と共有し、産学連携による課題解決と

社会実装をめざした共創活動を進めています。

2025年10月には、民間企業と理工学研究科「研究ユニット」の継続的なネットワーク形成を目的に、

会員制の「YIL産学連携アライアンス」を発足。

「YILシンポジウム」「ユニットシンポジウム」「オンライン講座」「博士研究マッチングイベント」

「ラウンドテーブル」「インダストリーランプセッション」などのイベントを通じた

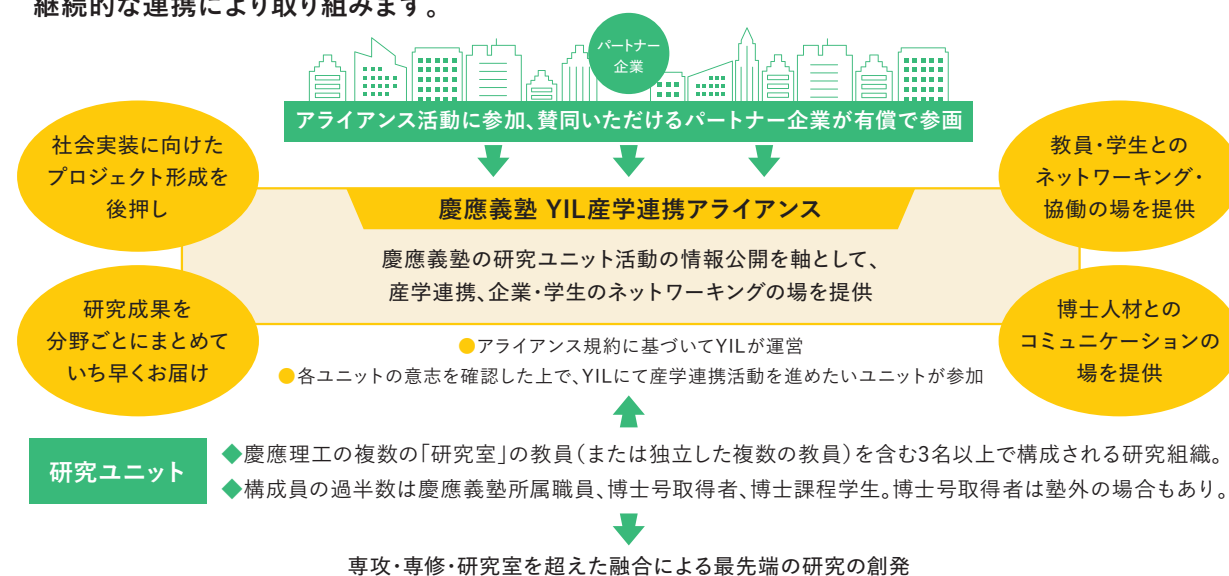
企業との知の共有やネットワーキング、連携プロジェクトに向けたディスカッションなどに取り組んでいます。

ここに流れる空気を感じに、ぜひYILへ足をお運びください。

◆ YIL産学連携アライアンス

半導体、AI、量子、人間工学、新物質・材料…

慶應義塾の先進技術からの価値創造と、創造を担う次世代人材の育成に慶應義塾とパートナー企業の継続的な連携により取り組みます。



Index 理工学部報 Vol.75

特集・コラム | 01

巻頭メッセージ | 03

常任理事メッセージ | 04

トピックス | 05

教育への新しい風／教員からのメッセージ | 09

理工学部の近況 | 10

矢上賞 | 15

就職近況 | 15

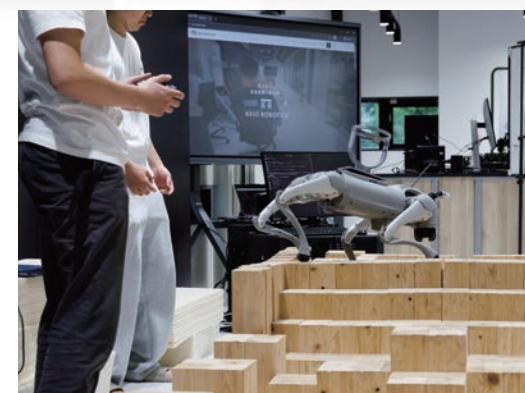
受賞 | 18

人事 | 19

計報 | 20

理工学コロキウム | 21

お知らせ | 22



コラム

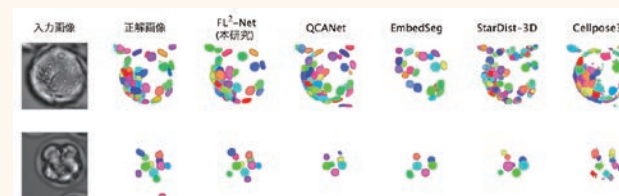
Column

生まれる力を、AIが見抜く

体外受精では、培養した複数の受精卵の中から最も生まれる見込みの高いものを選び、子宮に戻します。この「選ぶ」という過程が治療の成否を左右しますが、判断は今なお専門家の目に委ねられ、熟練度による差や膨大な手間が避けられませんでした。国内では、体外受精などの生殖補助医療技術による出生が14.6%にとどまる一因もここに 있습니다。

私たちの研究グループは、特別な染色を必要としない明視野顕微鏡の画像だけを頼りに、マウス受精卵の細胞核を自動で捉えるアルゴリズムFL2-Netを開発しました。細胞が密集していても核を正確に検出し、時間経過に伴う変化まで考慮できる点が特長で、既存の主要な手法をすべて上回る精度を実現しました。この核の形態や変化をもとに胚の出生を予測させたところ、精度は81.63%に達し、胚培養の専門家38名による目視判定(55.32%)を大きく上回りました。

生き物への負担が小さい本手法は、発生生物学の基盤技術としても応用が見込まれます。現在はヒト胚への適用を進めており、経験に頼ってきた選択に客観的な根拠を与え、不妊治療を支えることを目指しています。



3次元明視野顕微鏡画像の細胞核セグメンテーション結果



生命情報学科
舟橋 啓

理工学部・大学院理工学研究科特定プロジェクト推進ラボラトリー ～産学連携による 研究推進の新たな試み～

理工学部長
村上 俊之



日本の科学技術の推進を目的として、1995年に「科学技術基本法」が制定され、現在では「科学技術・イノベーション基本法」へと改正されています。また、同法に基づく第7期「科学技術・イノベーション基本計画」のもと、科学技術政策における6つの柱が示されました。その一つが「産学官を結節するイノベーション・エコシステムの高度化」です。このような時代の流れに即し、慶應義塾大学理工学部では、産学官連携の推進と社会貢献を目指し、2000年4月に「慶應義塾先端科学技術研究センター（Keio Leading-edge Laboratory of Science and Technology: KLL）」を発足させました。その後、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）に採択され、その一環として2025年4月、KLLの傘下に「矢上イノベーションラボラトリー（Yagami Innovation Laboratory: YIL）」が誕生し、産学官連携をより一層進めるための体制が整えられました。こうした体制の中、本年度より産学連携の新たな取り組みが始まります。これは、理工学部・理工学研究科の産学連携を強力に推進することを目標に、YILにおいて企業からの優れた外部研究者が集中して共同研究開発を行える環境を提供するものです。これにより、共同研究の質を飛躍的に向上させることを目的とし、「理工学部・大学院理工学研究科特定プロジェクト推進ラボラトリー（Keio Laboratory for Industry-Academia Specific Project Promotion: KLIA-SP）」として立ち上げられました。本年度設立された最初のラボラトリーは「アクセシビリティ・モビリティラボ」と命名され、IBMフェローや紫綬褒章等の多くの賞を受章されている浅川智恵子氏が特任教授・研究推進責任者に着任し、2026年4月より研究活動を行っています。このラボラト

リーは矢上キャンパス内に設置され、研究スペースの賃貸料を含む研究活動費のすべてが企業との共同研究費によって賄われています。学外関係者が自身のラボラトリーをキャンパス内に設置する試みは、矢上キャンパスでは初の事例となります。研究の推進にあたっては、共同研究契約を締結している企業に加え、理工学部内の教員や研究者も自由にメンバーとして加わることができます。すでに理工学部の教員数名が具体的な共同研究テーマに着手しています。当ラボラトリーでは、「AIスーツケース」の研究開発を通じて、視覚障害者が安心して移動できる社会の実現を目指しています。視覚障害は「見えない」だけでなく、「自由に移動できない」という移動障害を伴います。特に、人が歩行する際には、他の歩行者や障害物を認識・回避する「ローカル・ナビゲーション」と、交差点や標識などのランドマークを確認しながら正しい方向に進む「グローバル・ナビゲーション」の両方が必要となります。しかし、視覚障害者はこうした視覚情報を得られず、白杖の利用や盲導犬の同伴があっても、自立した移動には常に高い認知負荷が伴うのが現状です。AIスーツケースは、AIとロボティクス技術によりこれら2つのナビゲーションを統合的に支援するだけでなく、周囲の状況を理解しながら「楽しんで歩く」ことを可能にする、新しい自律型ナビゲーションロボットとして期待されています。今回のKLIA-SPの始動により、理工学部の産学連携と新たな共同研究が飛躍的に促進することを切に願っております。

最後になりますが、日頃より理工学部・理工学研究科の活性化のため、多大なご支援・ご協力を賜っております皆様へ深く感謝申し上げますとともに、引き続きご支援、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

泥臭くもがく背中を

常任理事
齋木 敏治



先日、学科のオムニバス講義の中で、私は鈴木健氏（理工学部OB）の著書『なめらかな社会とその敵』、そしてオードリー・タン氏とグレン・ワイル氏の共著『PLURALITY』の2冊を題材に、「理系の視点で世界を捉えること」の重要性と可能性について話をしました。

これらの著書に共通するテーマは、「複雑な世界を、複雑なまま生きる」ということです。私たちの社会は、複雑に絡み合った因果と価値の網の中に存在しています。しかし、人間の認知能力には限界があるため、私たちは無意識のうちにその網を断ち切り、世界を単純化して理解しようとしします。このように境界線を引いてしまう行為は、膜を隔てて内と外を分かťことで誕生した生命体である以上、避けることのできない人間の業とも言えます。こうした分断されがちな世の中を、多元的（Plural）な世界観によって「なめらか」につないでいこうというのが、両著のビジョンです。とはいえ、単純化された社会に慣れきった私たちにとって、複雑な世界を複雑なまま生きることは、気が遠くなるほどの努力を要します。その心理的・社会的ハードルをテクノロジーによって乗り越えていこう、と著者らは主張しています。

ここで注目すべきは、著者たちのバックグラウンドが理系であるという点です。特に鈴木氏は、人工生命や複雑系、カオス理論といった学問領域を深く修めた方であり、だからこそ、自然科学や数理的な現象を人間社会とのアナロジーを通して見つめ直し、「社会で何が起こり得るか」「システムとして何ができるか」を鮮やかに予見でき

るのだと思います。個人が抱く内的な変化や思いを、そのまま社会全体へと射影するシステムの構築は、まさに圏論的な数学的思考そのものです。理系の視点から見える高度な抽象概念の社会的価値は、まさにイノベーションの種と言えましょう。

しかし、このシステムを現実の社会へ実装していくには、心理学、経済学、法学、政治学といった文系の知恵が不可欠になります。そして、それらの異分野と本気で協働するためには、その知識やマインドセットをそっくりそのまま自分自身の中に取り込む覚悟が求められます。これは、想像を絶するほどタフな作業である一方、最も楽しい「過程」でもあります。

現在、「AIキャンパス構想」のもとで学内のAIインフラが急速に整備されつつあります。学生たちは瞬間に「壁打ち」の技術を磨き、学習だけでなく研究においても、驚くほど上手にAIを活用するようになるでしょう。しかし一方で、研究の効率化と引き換えに、学生たちがうんうん唸りながらもがき苦しむ機会が失われてしまうことも懸念されます。何度も壁にぶつかり、もがき続けた先に得られる達成感や、過程を楽しむという人間本来の深い喜びが、効率化の波にかき消されてしまうのはあまりにも惜しいことです。だからこそ、いま教員に期待される役割とは、泥臭くもがき、悩み、思考を止めない姿勢、その背中を見せることではないでしょうか。先ほど述べた、異分野との対話に悪戦苦闘する教員の姿を学生たちに晒していくことも、その一歩と考えます。

「未来のコモンセンス」を創る 博士人材の育成：Keio-SPRINGの挑戦

理工学研究科委員長
Keio-SPRING 事業統括 泰岡 顕治



慶應義塾大学は、2021年度より科学技術振興機構（JST）「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」の支援を受け、博士後期課程学生を対象とした「Keio-SPRING」を推進しています。2024年度からは「未来のコモンセンスをつくる博士人材の育成」をテーマに掲げ、専門分野の卓越した研究力に加え、人や社会への深い理解に基づき新しい価値を創造できる次世代リーダーの育成を目指しています。現在、博士課程を開設している全13研究科から意欲的な学生が採択されています。

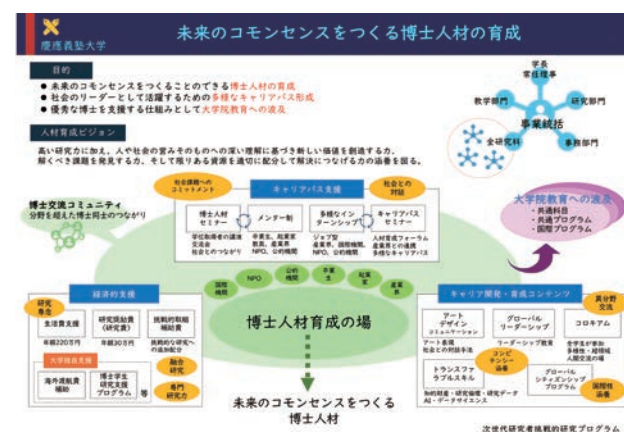
本プロジェクトの特色は、経済的支援と多様なキャリア育成を「両輪」とする点にあります。生活費相当額（年間220万円）と研究費（年間30万円）の給付に加え、海外での共同研究などに挑戦する学生には、審査を経て「挑戦的取組補助費」（年間最大100万円）を追加配分します。しかし本事業の真価は、こうした経済的支援にとどまりません。総合大学の強みを活かした「キャリア開発・育成コンテンツ」を通じ、学生が自らの専門を超えて視野を広げ、多様なキャリアパスを主体的に描くことを促す、体系的な人材育成プログラムである点にあります。

育成コンテンツは大きく二つの柱で構成されます。「キャリアパス支援」では、アカデミア以外も含む多様な進路を紹介する「キャリアフォーラム」、産業界と連携する「ジョブ型研究インターンシップ」、そして博士号取得後に大学以外のフィールドで活躍する方を講師に招く「博士セミナー」を毎月各キャンパスで開催し、修了後のキャリアを具体的に思い描く機会を提供しています。

「トランスファラブルスキル養成」では、博士学生自身が企画・運営し、分野の垣根を越えて20年後の社会を構想する「慶應コロキアム」（2026年3月実施のテーマは「AIの最前線とビジネス」）を全員参加で実施し

ています。加えて、研究倫理やデータサイエンスを学ぶ「コアスキル養成プログラム」、システム×デザイン思考を核とする「グローバル・リーダーシッププログラム」、アートを通じて感性と対話力を培う「ADCプログラム」を展開しています。さらに「グローバル・シティズンシッププログラム」では、2024年度・2025年度に米国ニューヨーク州でIBM等のAIハードウェア開発を含む産学官エコシステムを、また2025年度にはさらにカリフォルニア州（シリコンバレー）のスタートアップ・エコシステムを、いずれも約10日間かけて実地調査しました。これらを下支えするのが、学生主導のコミュニティ「博士の卵の会」です。研究科や専門分野を超えた博士学生が日常的に交流し学び合う場として、毎月キャンパスで研究発表・交流イベントを開催しています。

理工学研究科でも多くの学生が本プログラムを活用し、専門性を深めると同時に、異分野との対話を通じた「総合知」を培っています。理工学研究科委員長として、また本事業の事業統括として、博士学生の皆さんが「未来の先導者」としてグローバルに活躍し、社会の「あたりまえ」を更新し続ける存在となることを期待しています。



Keio-SPRINGの人材育成ビジョンと事業構造図。

経済的支援と多様な育成コンテンツを両輪とし、13研究科が連携して次世代のリーダーを育成する本プロジェクトの全体像。

ホームカミングデーについて

理工学部同窓会副会長 朝倉 浩一



「慶應義塾の良さは、特に卒業後に感じる」という声をよく聞きます。これは、塾員としての多種多様なネットワークが構築され、そのことで人生がより豊かで楽しいものとなることが多いためと感じています。また、塾員同士であるが故に高い信頼感と親近感が生まれ、そのことで仕事上大変に良い結果がもたらされることもあるという話も聞きます。このような、「慶應義塾に学んで良かった」という気持ちや、卒業生の皆様にさらに醸成されてくるよう、理工学部・大学院理工学研究科は、例年6月の土曜日に、ホームカミングデーというイベントを開催してきました。

このホームカミングデーは、理工学部・大学院理工学研究科を卒業あるいは修了して10年、20年、30年、40年、50年を迎えた同窓生の皆様、すなわち連合三田会大会の運営を務める卒業期の皆様を、矢上キャンパスへお迎えするイベントです。ここでは、学部長および広報委員会委員長による理工学部・大学院理工学研究科の近況報告、マニファクチュアリングセンター、中央試験所、メディアセンターなどといった矢上キャン

パス内の諸施設の見学、お招きした同窓生の代で活躍されている方による講演などという企画に加え、30～70歳代の幅広い世代が一堂に介しての大懇親会が行われております。

このイベントは2016年度より開始し、その後、コロナ禍で大幅なスケジュール変更を余儀なくされた期間もございましたが、毎年度、盛大に開催されてきました。（ちなみに、昨年度である2025年度の参加者数は約170名でした。）しかしながら、本年度は、ホームカミングデー開催予定日であった6月27日（土）は、台風が関東地方直撃の可能性が高いということで、慶應義塾大学全体で休校となったことを踏まえ、この日のホームカミングデーの開催を断念せざるを得ませんでした。このことは大変に残念ではございましたが、スケジュールを変更し、あらためて11月7日（土）にホームカミングデーを開催することとなりました。卒業あるいは修了後10年、20年、30年、40年、50年の同窓生の皆様におかれましては、是非ご参加いただけますよう、お願い申し上げます。



大学院改組による新専攻体制と研究ユニットについて

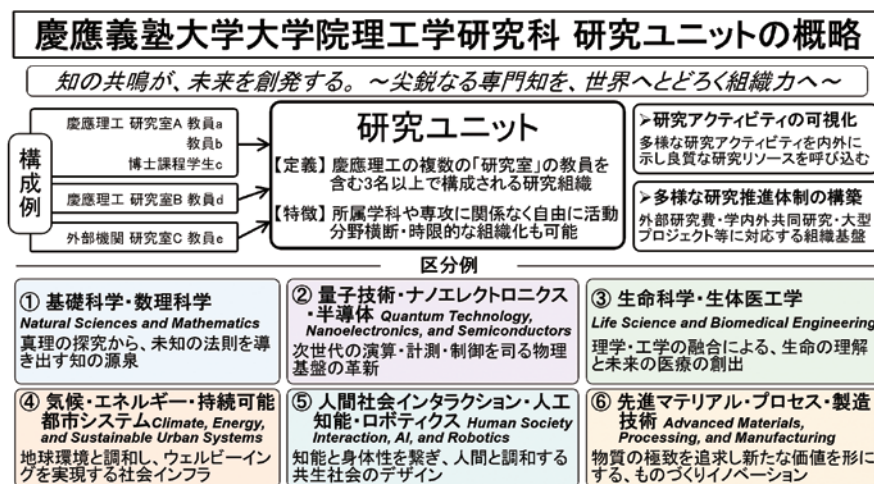
企画室会議（規程・広報・研究ユニット担当） 奥田 知明



2021年から5年間に及ぶ入念な準備期間を経て、2026年4月より理工学研究科の新たな大学院組織として、先端数物科学専攻、化学・生命情報科学専攻、総合デザイン工学専攻、人間・社会システム情報科学専攻、の4専攻体制がスタートしました。2000年の大学院改組から約四半世紀ぶりの改革となるこの専攻体制は、科学技術を「理学・自然科学－工学・人間・社会」の軸から4つに整理したもので、境界領域や分野融合を否定するものではなく、高度な専門教育の効率的な実現をシンプルな体制として目指したものになります。理工学研究科では、研究・教育の理念を「大学院においては、多様性を重視しつつ、科学技術の専門性を活かして未知の領域に果敢に挑戦し、社会を先導できる研究教育を行う」と掲げ、研究においては世界最先端を目指し、教育においては最先端の研究を通じた教育を行うとして、研究の柔軟性・発展性と教育の安定性を同時に向上する組織を構築することを目指します。理工学研究科の理念を表す「創発(Emerging)」、つまり各構成要素の相互作用によって飛躍的な結果が全体として発現することをさらに前進させるため、新体制では教員が複数の研究組織に自由に所属でき、より流動性のある多様な研究活動を推進できるよう、「研究ユニット」制度を発足させました(研究ユニット一覧: <https://www.keio.ac.jp/ja/st/about/post/>)。

研究ユニットは「知の共鳴が、未来を創発する。～尖鋭なる専門知を、世界へとどろく組織力へ～」という志の下で結成されています。研究ユニットの定義は「慶應理工の複数の「研究室」の教員を含む3名以上で構成さ

れる研究組織」となっており、所属学科や専攻とは関係なく自由に活動できます。その具体的な意義として、まず組織としての多様な研究アクティビティの見える化（見せる化）が挙げられます。慶應理工では既に多くの良質な研究が教員個人や学内外の共同研究の形で進んでいるため、この活発な研究活動を内外に示し、さらに良質な研究リソースを呼び込みます。さらに外部研究費や共同研究の受け皿組織を構築できます。現行の共同研究はもちろん、大型プロジェクト獲得を目指す座組や、分野連動的な取り組みや萌芽的内容に挑戦するための、時限的かつ理工学研究科の後ろ盾がある研究組織の構築を可能とします。2025年4月にプレスタートし、2026年4月の正式スタート時点で47の研究ユニットが発足しました。多様な研究ユニット名を眺めるだけで、次代への慶應理工の取り組みに心が躍ります。既に研究ユニット単位で大型の研究プロジェクトを立ち上げて外部資金を獲得したり、企業群とのコラボレーションイベントを実施するなど、当初の予想をはるかに上回る勢いで慶應理工の研究力が花開いています。確かな足取りで理想の教育と研究を追求する新専攻体制に、ぜひご期待ください。



研究ユニットの概略図。区分は一例であり、複数の該当したりここに該当しない研究ユニットもあり得る。

ウェブサイトリニューアルについて

広報連絡協議会委員 西 宏章



今回のウェブサイトリニューアルは、慶應義塾全体で進められました。実施体制として、委託先であるチームラボ株式会社と連携しながら、学内では広報室に加え、理工学部では総務課・学生課等が関与しています。その狙いは、単に見た目を新しくすることではなく、義塾が有する豊富なコンテンツをより効果的に活用し、多彩な取組や成果、教員・研究者・塾生・塾員の活躍を国内外へ発信する基盤を整えることです。

そのため、膨大な情報がわかりやすく整理されたサイト構成を実現するとともに、義塾が情報を届けたい多様な層へ、有効かつ持続的に情報発信できる仕組みを整える方針が掲げられました。さらに、ウェブサイトの刷新そのものを目的とせず、広報体制や運用の仕組みを改善することを目指しました。

その具現化として、ワンソース・マルチユースの考え方にに基づき、共用コンテンツ化が進められ、27サイト・約3.2万ページ規模の統合が行われました。さらに、関連記事やおすすめ記事などにより、サイト内の回遊性を高める工夫も盛り込まれています。あわせて、ウェブアクセシビリティにも配慮されています。

また、日本語ページと英語ページの構造を対応させる日英のミラー構造化により、国内外の閲覧者に対して、より一貫性のある情報提供が可能となりました。これに加えて、義塾のAI基盤を活用した機械翻訳支援機能も実装され、国際的な情報発信を支援する仕組みが強化されています。さらに、K-RISとのAPI連携による機能統合も進められており、現時点では2026年秋の完全統合が予定されています。

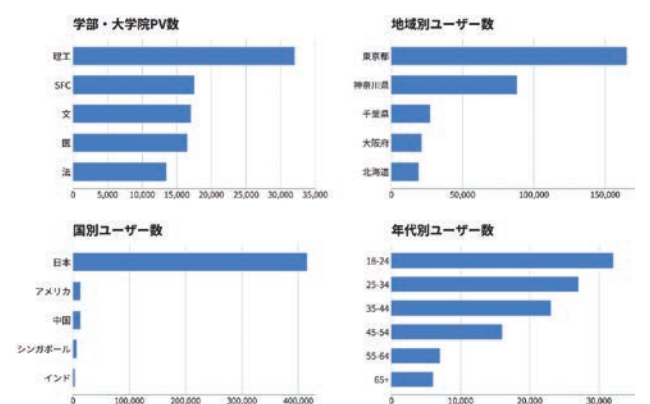
コンテンツ面でも、新たな試みとして、塾生による企画取材コンテンツ「Keio LIFE」や、研究広報コンテンツ「Keio FUTURE」など、義塾の活動を継続的に発信す

る枠組みが整えられました。多様な側面から慶應義塾の魅力を伝えることが可能となっています。

特に、卒業を控えた学部生に、慶應で得た「自分を変えた出会いや発見」をフリップに記してもらい撮影する「My Inspiration, My KEIO」では、短い準備期間にもかかわらず、多くの方にご対応いただきました。その結果、印象的で充実したコンテンツを制作することができました。各学科の主任・広報担当の先生方、ならびに関係各位に、改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

公開後のアクセス分析を見ても、学部・大学院別PV数では理工学部が最も多く、理工系コンテンツへの高い関心が確認されています。また、閲覧地域は首都圏が中心であり、年代別では若年層を中心に幅広い年代から利用されていることがわかります。

今後は、2026年度に約60サイトを対象とする第2期の移転・統合が予定されており、公開後の運用や分析に基づいて継続的に改善してまいります。



▲集計期間：
2026年4月6日～
2026年4月30日、
チームラボ調べ

◀刷新された理工学部ページのイメージ



先端数物科学専攻

【専門】医用画像、脳神経画像、生体磁気計測 **伏見 幹史**（助教）

本年4月に物理情報工学科に着任しました。2021年に東京大学で博士号を取得後、同大学工学系研究科特任助教を経て、本年3月まで同大学情報理工学系研究科助教として生体磁気イメージングの研究に従事してきました。

専門分野は医用画像および脳神経画像、特に磁気共鳴画像や脳磁図に代表される、磁気を用いた生体の非侵襲イメージング技術です。これらの技術はいずれも臨床や研究の現場に広く普及していますが、その基盤には数理、物理、情報、基礎工学／システム科学といった理工学の精髓が凝縮されています。近年のセンサ技術の革新やAIの進展を自身の計測・解析技術と融合させることで、既存の枠組みを超えた次世代のイメージングの地平を切り拓いていきたいと考えています。

豊かな緑と伝統ある英知が融合する矢上の環境で、飽くなき探究心をもって教育や研究に励んで参ります。



化学・生命情報科学専攻

【専門】天然物化学、ケミカルバイオロジー、微生物学 **齋藤 駿**（専任講師）

2020年4月に生命情報学科の助教（有期）として着任し、本年4月より専任講師となりました。2017年3月に本学で博士号を取得して以来、母校にて教育・研究に携わる機会をいただいていることを大変嬉しく思います。私は天然物化学を専門としており、微生物が生産するさまざまな化学物質の研究に取り組んでいます。学生時代は医薬品候補となる有用天然物の探索研究を行っていましたが、その過程で「微生物はなぜこのような化合物を生産するのか」という疑問を抱くようになりました。その関心から現在は、天然物が微生物の生存や環境適応において果たす役割や、その生産機構の解明を進めています。また、生命情報学科の特色を生かし、情報科学的視点を自身の研究に取り入れることにも挑戦しております。今後は独立自尊の精神のもと、教育・研究活動を通じて、塾の発展に貢献してまいりたいと考えております。



総合デザイン工学専攻

【専門】光通信、無線通信、セマンティック通信 **久野 大介**（准教授）

2026年4月に電気情報工学科に着任いたしました。2014年4月から2018年9月まで企業の研究所において通信システム、特に光通信システムと無線通信システムの融合に関する研究開発に従事し、2018年10月から2026年3月までは大阪大学 大学院工学研究科で助教として教育・研究に携わってまいりました。これまで、光ファイバ通信、光無線通信、深層学習を用いた次世代通信技術に関する研究を進めてきました。特に近年は、水中や宇宙など、従来の無線通信が困難な環境において、高信頼かつ大容量な通信を実現するための光電波技術に取り組んでいます。通信技術は、人と人、人と機械、さらには機械同士をつなぐ社会基盤です。教育においては、基礎を大切にしながら、学生が自ら新しい技術を切り拓く力を身につけられるよう努めてまいります。慶應義塾大学理工学部のさらなる発展に貢献できるよう、研究・教育に精一杯励んでまいります。

機械工学科の近況

2026年度より機械工学科主任を務めることになりました。本学科では2026年3月に小尾晋之介教授がご定年を迎えられ、4月には藤野梨紗子助教が着任され、新たな体制で教育・研究活動を進めています。機械工学科は理工学部とともに2039年に創立100周年を迎えます。現在、この節目を次の100年への出発点と位置づけ、研究大学を担う組織への転換を目指した改革に取り組んでいます。少子化や国際競争の激化を背景に、研究大学には世界をリードする研究と博士を中心とした高度人材の育成がこれまで以上に求められています。2025年度には11科目を英語で開講し、必修科目「工場見学」では1学年の半数以上にあたる75名が海外コースに参加するなど、国際化を着実に進めてきました。今後は、学部から博士課程までを一体的に捉えた教育・研究環境を整備し、カリキュラム改革、国際連携の強化、優秀な博士学生の育成・獲得、研究環境や支援体制の充実を通じて、世界中から優秀な学生や研究者が集う学科を目指してまいります。どうぞご期待ください。

電気情報工学科の近況

2026年度も引き続き、電気情報工学科主任を務めております。田中貴久教室幹事、久保亮吾学習指導副主任とともに、学科運営に取り組んでおります。本年度は、久野大介准教授、および中山牧水助教（有期）が着任し、教育研究体制がさらに充実しました。また、斎木敏治教授が理事に就任され、岡田英史教授とあわせて、本学科から2名の理事が義塾運営を担うこととなりました。本学科では、エレクトロニクス、インフォマティクス、フォトニクスを柱に、電気、情報、光をつなぐ教育研究を進めています。社会基盤を支える通信・情報処理から、AI時代のハードウェア、先端的な光技術まで幅広い分野を扱っています。2025年度入学から始まった分野志向型入試では、1年生が早い段階から専門分野に触れる機会を設けています。さらに、3年生の台湾での工場見学など、産業界や海外との接点を意識した学びも始めました。広報面では、SNSに加えて学科紹介漫画の発信も開始し、学生の活動や学科の魅力を分かりやすく伝えてまいります。

応用化学科の近況

昨年度より主任を務めております高尾です。奥田知明学習指導副主任、藤岡沙都子教室幹事とともに学科運営に取り組んでおります。当学科では昨年度に今井宏明教授と戸嶋一敦教授が定年退職され、今年度は新たに稲葉和樹助教（有期）と亀谷優樹助教（有期）が着任されました。また、佐藤隆章准教授と高橋大介准教授が教授に、磯由樹専任講師と小椋章弘専任講師が准教授に昇格されました。

今井先生は材料化学、とりわけ生物由来の鉱物や機能性ナノ材料の分野において、戸嶋先生は有機合成化学、糖質化学およびケミカルバイオロジーの分野において、ともに第一人者として目覚ましいご活躍を続けてこられました。数多くの国際的な研究業績を挙げられたその顕著な功績から、慶應義塾より今井先生には2025年に福澤賞、戸嶋先生には2024年に義塾賞が授与されています。応用化学科を牽引してこられた両先生が定年という節目を迎えられたことに感慨は尽きませんが、これまでの多大なご貢献に厚く感謝申し上げます。



機械工学科主任

竹村 研治郎機械工学科
ウェブサイト

電気情報工学科主任

田邊 孝純電気情報工学科
ウェブサイト

応用化学科主任

高尾 賢一応用化学科
ウェブサイト

物理情報工学科の近況

本年度より新たに学科主任を拝命しました。人事関連では、本年3月に的場正憲教授、藤谷洋平教授が退職し、4月に太田泰友准教授が教授に昇格、明石遼介准教授、岩崎秀専任講師、伏見幹史助教が着任しました。また、大変残念なことに、同年3月に二瓶栄輔准教授が在職中にご病気のため逝去されました。本年度は、太田泰友教授を教室幹事、井上正樹教授を学習指導副主任として、教授14名、准教授5名、専任講師3名、助教2名の総勢24名で、学科の教育・研究活動を進めております。学事面では、本年3月に4年生108名を送り出し、4月には新たに2年生98名を迎え入れました。本年度は学科創立30周年を迎えることとなり、12月に記念行事の開催を計画しています。また、国際化活動として、本年3月に新たな短期国際プログラム「物理情報グローバルセミナー台湾」を実施し、2、3年生の希望者計11名が参加しました。今後も、学科の教育・研究活動のさらなる活性化を目指してまいります。引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

管理工学科の近況

山田秀教授の後、本年度より学科主任を務めております。坂東桂介教室幹事、山本零学習指導副主任、2026年4月着任の西島光洋助教（有期）を含め、教授14名、准教授4名、専任講師1名、助教3名総勢22名の体制にて学科運営にあたっています。本年3月に、長年学科のために尽力されました栗田治教授（オペレーションズ・リサーチ）が退職され、4月より松浦峻教授（統計学）、大澤博隆教授（情報科学）、中嶋良介准教授（インダストリアル・エンジニアリング）が昇任されました。少子高齢化や国際情勢の変動は、労働環境の変革やサプライチェーンの再構築を促し、AI・DXや自動化技術の導入と表裏一体となって実社会を大きく動かしています。管理工学科では、人間・もの・情報・かねを柱とし、こうした社会構造の大きな変化を見据え、複雑に連動する社会課題の解決に向けた教育研究を展開しています。今後とも日々の教育研究活動のさらなる充実と発展に努めてまいります。当学科への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

数理科学科の近況

今年度より数理科学科の主任を務めております。学習指導副主任の高山正宏専任講師、教室幹事の白石博教授とともに、学科運営にあたっております。

当学科ではこの数年でメンバーの入れ替わりが進んでおります。昨年度（2025年度）3月に栗原将人教授が定年退職され、4月には同じ代数分野の越川皓永准教授を迎えました。越川先生は若いながら世界的に活躍されている数論幾何分野の数学者です。また、幾何分野の服部広大先生、統計分野の林賢一先生が教授に昇格いたしました。さらに今年度（2026年度）3月には太田克弘教授、田村明久教授が定年退職される予定で、来年度にも新しく2名の教員を迎える予定です。このように新しいメンバーを迎え、数理科学科の教育研究活動がさらに活性化することを、とても楽しみに感じております。今年度にはコロナ禍によって中止されていた3年生歓迎会が復活いたしました。2年生懇親会や先端数理科学研究センター談話会など、他の学科・学部横断イベントとも合わせ、以前にも増して活気ある交流の機会が増えてきました。重要性が増している数理科学分野の発展に、数理科学科が貢献することを期待しています。今後とも、皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。



物理情報工学科主任

石樽 崇明

物理情報工学科
ウェブサイト

管理工学科主任

大門 樹

管理工学科
ウェブサイト

数理科学科主任

坂内 健一

数理科学科
ウェブサイト

物理学科の近況

7年間にわたり物理学科主任を務められた大橋洋士教授が、本年度4月より先端数物科学専攻の専攻長に就任されました。これに伴い、主任の残任期間を能崎が引き継ぐこととなりました。大橋教授は、この7年間、教員人事やコロナ禍での教育・研究体制の整備など、学科の発展に大きく貢献されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。また、杉本高大講師が4月から北里大学へ講師として異動されました。これまでの教育・研究へのご尽力に感謝いたします。

今年度は、大学院理工学研究科の教育研究体制が大きく変わり、基礎理工学専攻に所属していた物理学専修は、先端数物科学専攻の物理学カリキュラムとして新たなスタートを切りました。基礎物理学を深化させるとともに、数学や応用物理学との連携を強化した教育体制となっています。長年培ってきた伝統を大切にしながら、新しい教育・研究環境のもとでさらなる発展を目指してまいりますので、これからの物理学科の成長を温かく見守っていただければ幸いです。

化学科の近況

本年度から教室幹事が大松亨介教授になり、学習指導副主任の畑中美穂教授と共に、学科教員と協力して、学科運営を行っております。人事につきましては、本年3月に中嶋敦教授、河内卓彌准教授、松丸尊紀助教、増淵継之助助教（有期）が退職され、本年4月に山崎優一教授、佐々木大輔准教授（有期）、堀内新之介准教授（有期）、深堀信一専任講師（有期）、本年6月に相羽俊彦専任講師（有期）が着任されました。学科教員の約4分の1が入れ替わりまして、一同、気持ちを新たに教育・研究活動に取り組んでおります。

昨年8月には、山村庄亮名誉教授がご逝去されました。我が国の天然物有機化学の発展をリードされ、化学科の創設や学生の教育におきましても多大な貢献をされました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

本年度からの大学院改組に伴い、化学科教員をセンター長とする三つの研究創発センターが立ち上がっています。本年も最先端化学の推進を足掛かりに、新しい基礎化学を切り拓く研究と人材の育成に取り組んで参ります。

システムデザイン工学科の近況

本年度よりシステムデザイン工学科主任を務めることになりました。創設30周年という大きな節目を迎えた直後に主任を拝命し、本学科が築いてきた教育・研究の厚みと、次の時代に向けた責任の重さをあらためて感じております。

本年3月には、システムデザイン工学科創設30年記念シンポジウム「羽ばたくシステムデザイン工学 ～SD2.0への挑戦!～」が開催されました。創設期から受け継がれてきた理念を振り返るとともに、卒業生、在学生、教職員が一堂に会し、これからのシステムデザイン工学の方向性を考える貴重な機会となりました。

また、2026年4月からは大学院理工学研究科の新たな教育研究体制が始まり、学部から大学院まで一貫した研究教育をさらに発展させる段階に入りました。本学科の特色である分野横断性を活かし、「解析」「設計」「調和」を基盤とするシステムデザイン工学を深化させ、人間・社会・自然と調和した新しい価値を創出できる人材の育成に努めてまいります。



物理学科主任

能崎 幸雄

物理学科
ウェブサイト

化学科主任

近藤 寛

化学科
ウェブサイト

システムデザイン工学科主任

高橋 正樹

システムデザイン工学科
ウェブサイト

情報工学科の近況

本年度も引き続き学科主任を務めさせていただいております。学習指導副主任は鳴海紘也准教授、教室幹事は松谷宏紀教授が務めております。また本年3月に斎藤博昭教授ならびに藤代一成教授が退職されました。去年9月よりシン アンドリュウ助教、4月より富田寿子助教が着任され、本年度は教授12名、准教授6名、助教2名の計20名にて教育研究に取り組んでおります。

情報工学分野は、通信工学、コンピュータハードウェア・ソフトウェア、インターネット、ヒューマンインタフェース、メディア情報処理といった本学科の基盤となる領域を土台としながら、生成AIをはじめとする人工知能技術、データサイエンス、サイバーセキュリティ、次世代ネットワーク、量子コンピュータ、クラウド・エッジコンピューティングなどの進展により、社会のあらゆる場面と深く結びつく学問分野へと急速に広がっています。こうした変化を的確に捉え、情報分野の確かな基礎教育を行うとともに、学生が新しい技術と社会課題の双方に向き合うことのできる教育研究の場を提供してまいります。

生命情報学科の近況

2002年4月の学科設立から早いもので25年目を迎えました。本年4月に福永津嵩准教授の研究室に比企佑介助教（有期）が着任し、情報系研究室構築が一段と進んでおります。また、ケミカルバイオロジー研究室の齋藤駿専任講師（有期）が専任の専任講師に、リハビリテーション神経科学研究室の岩間清太朗助教（有期）が専任講師（有期）に任用されました。本年度より学部学習指導副主任の川上了史専任講師、大学院学習指導副主任の堀田耕司准教授、教室幹事の土居信英教授とともに学科運営にあたっております。我々の学科は、「生物」「物理」「化学」「情報」の4つの学問分野を柱とし、益々加速する情報科学時代の中、情報科学も扱える生命科学の先導者を育てることを目的としています。学科設立以来、このポリシーを大切に守り続けてきました。年月を経て学科の体制は変わっていきますが、これからも引き続き、この方針を堅持していく所存です。

外国語・総合教育教室の近況

外国語・総合教育教室では、4月に新入生を迎え、履修相談やクラス編成、授業運営などで慌ただしい日々が続きましたが、教職員の協力のもと、大きな混乱もなく新年度をスタートさせることができました。現在は各授業も順調に進行し、教育活動は軌道に乗っています。本年度は、特別研究期間および海外留学を終えた3名の教員が復帰し、その研究成果をもって教育・研究活動に新たな活力をもたらしています。一方で、新たに2名の教員が特別研究期間・海外留学のために出発し、それぞれの専門分野において研鑽を積んでいます。このような活力ある人的交流は、教室全体の国際性と研究力の向上に大きく寄与するものと期待されます。しかしながら、当教室にとって大変悲しい出来事もありました。外国語教育および理工学部の発展に長年尽力され、ご退職後も後進の育成に温かい関心を寄せてくださった名誉教授の廣本勝也先生が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表しますとともに、先生のご功績に深い敬意と感謝を捧げます。



情報工学科主任

今井 倫太

情報工学科
ウェブサイト

生命情報学科主任

荒井 緑

生命情報学科
ウェブサイト外国語・総合教育
教室主任

小菅 隼人

新しい専攻の発足にあたり

大学院改組に伴い4月に発足した先端数物科学専攻の初代専攻長を務めています。曾我幸平、檜垣徹太郎専攻幹事、勝良健史、山内淳、田中宗学習指導副主任、井関裕靖、能崎幸雄、渡辺宙志カリキュラム主任と共に新専攻の運営にあたっています。

旧体制での「専修」という名称は「カリキュラム」に変更され、本専攻は「数理科学カリキュラム」「物理学カリキュラム」「物理情報工学カリキュラム」という3つの教育組織から成ります。加えて、新体制では「ユニット」と呼ばれるカリキュラムとは別の研究組織もあります。この新専攻の発展に是非ご期待ください。



先端数物科学専攻長

大橋 洋士

新たな「創発する組織」として
「化学・生命情報科学専攻」が始動！

大学院理工学研究科が3専攻制から4専攻制へと改変され、新たな創発を目指す専攻の一つとして誕生したのが「化学・生命情報科学専攻」です。学部組織では「応用化学科」「化学科」「生命情報学科」に所属する全教員が集い、「分子・生物化学」「創発理化学」「生命システム情報」の3カリキュラムから構成される専攻です。この度、本専攻の初代専攻長を拝命し、加納英明、磯由樹専攻幹事、佐藤隆章、蛭田勇樹、堀田耕司学習指導副主任、ならびに各カリキュラムの末永聖武、藤原忍、荒井緑主任をはじめとした皆様と、運営にあたっております。



化学・生命情報科学専攻長

朝倉 浩一

新たな総合デザイン工学専攻の始動

2026年度、総合デザイン工学専攻は新体制でスタートしました。本専攻は、機械工学、電気情報工学、システムデザイン工学の三つのカリキュラムを有機的に結び、社会の複雑な課題に応える人工物・システムの創出を目指します。本年度は、深淵康二先生、武岡正裕先生、田口良広先生をカリキュラム主任、高橋英俊先生、大家哲朗先生を専攻幹事、安藤景太先生、野田啓先生、山本詠士先生を学習指導副主任に迎え、専攻を運営してまいります。工学的なものづくりを通じて学生の創造力を育み、分野を越えた新しい価値の創出に挑戦する教育研究拠点として、専攻全体で未来社会を切り拓いてまいります。



総合デザイン工学専攻長

滑川 徹

人と社会をつなぐ新専攻の船出

本年度より、理工学研究科は4専攻体制となり、人間・社会システム情報科学専攻が発足しました。本専攻は、情報学を基盤に、人間や社会の課題を自然、文化、技術と結びつけて考えます。オープンサイエンスカリキュラムは、情報工学を専門とする教員を中心に、日吉所属の教員も参加し、分野やキャンパスを越えた新たな試みを進めています。管理工学カリキュラムは、管理工学を専門とする教員を中心に、「人間」「もの」「情報」「かね」を切り口として、現実の問題を解く力を育てます。二つの特色を生かし、未来社会に貢献する人材育成を進めてまいります。



人間・社会システム情報科学専攻長

斎藤 英雄

同窓会研究教育奨励基金では理工学を原点として、これまでに社会的に顕著な活動や、研究教育活動などを通して多大な社会的貢献を果たされている卒業生を奨励するため、矢上賞の表彰事業を行っています。

今年度は、10月24日（土）13時より、矢上キャンパス創想館地下2階「マルチメディアルーム」において以下7名の方を表彰いたします。

2026年度矢上賞

- 長澤 和哉 君 ※功労賞(1994年 機械工学専攻修士課程修了 東京海上アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長 兼 CEO)
- 藪野 浩司 君 ※功労賞(1990年 機械工学専攻博士課程修了 筑波大学システム情報系知能機能工学域 教授)
- 野本 麻紀 君 (2007年 総合デザイン工学専攻修士課程修了 科学コミュニケーター)
- 村橋 将崇 君 (2012年 基礎理工学専攻修士課程修了、2021年 福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻博士課程修了 福井県警察本部刑事部科学捜査研究所 法医研究員 兼 福井大学 特別研究員)
- 篠田 大輔 君 (2006年 開放環境科学専攻修士課程修了 株式会社シンク 代表取締役)
- 須田 理行 君 (2009年 総合デザイン工学専攻博士課程修了 名古屋大学大学院理学研究科理学専攻 教授)

2026年度矢上賞（起業支援）

- 小原 やちこ 君 (2015年 基礎理工学専攻修士課程修了 Motherhand 株式会社 代表取締役)

矢上賞の詳細につきましては、理工学部ウェブサイト(<https://www.keio.ac.jp/ja/st/for-alumni/ygprize/>)をご覧ください。

就職近況

Employment status

最近の就職活動および就職状況について

理工学部
就職担当委員長
大槻 知明



1 | キャリアを自らデザインする力を育む —理工系学生へのキャリア形成支援—

AIやデジタル技術の急速な進展と社会全体への普及に加え、産業構造や働き方の多様化を背景として、理工系学生を取り巻く就職環境は大きく変化しています。企業の採用活動は年々早期化するとともに、インターンシップや早期選考を経て早い時期に内々定を得る学生が増える一方、より良い進路を求めて就職活動を継続する学生も多く、就職活動の長期化が見られます。また、エントリーシートの作成や企業研究などで生成AIを活用する学生も急速に増えており、情報収集や自己分析

を効率的に進められる環境が整いつつあります。その一方で、学生自身が価値観や将来像を深く考え、自分らしいキャリアを主体的に描く力が、これまで以上に重要になっています。

理工学部では、キャリア形成支援を単なる就職活動支援ではなく、長期的な人生設計を支える教育の一環と位置付けています。卒業生との交流を通じてさまざまなキャリアを学ぶ「キャリアデザインラウンドテーブル」を継続的に開催するとともに、博士課程学生やポスドク、留学生など、多様な背景を持つ学生・研究者を対象とした企画も実施し、それぞれのキャリアについて考える

機会を提供しています。

本年度は新たな取組として、博士課程学生および修士課程学生を対象としたポスターセッションを初めて開催しました。ポスターセッションを通じて企業関係者と直接交流し、研究成果を発信するとともに、自身の専門性や研究の社会的価値を伝える機会を設けることで、博士・修士課程学生のキャリア形成を支援しました。学生のキャリア形成を支援すると同時に、理工学部の研究力を社会へ発信する有意義な取り組みとなりました。

学生からのキャリア相談件数は昨年度とほぼ同水準で推移しています。就職委員およびキャリア支援オフィスでは、就職活動の長期化や進路選択の多様化に対応しながら、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を継続しています。今後も、変化する社会や就職環境に柔軟に対応し、学生が納得できるキャリアを主体的に描けるよう、多面的な指導を推進してまいります。

2 | 2025年度（2025年9月、2026年3月）卒業・ 修了者就職状況・就職支援活動

2025年度の就職支援活動では、継続的な対面型交流企画「キャリアデザインラウンドテーブル（3回）」に加え、3月には初の試みとして博士・修士・留学生を対象とした「キャリアデザインフォーラム」を開催し、ポスターセッション等を通じて学生のキャリア意識向上と研究成果の直接アピールの機会を創出しました。

就職状況は、学部卒業生の19%が就職（技術系27%、事務系その他73%）し、修士課程への進学率は79%でした。また、修士課程修了生の84%が就職（技術系52%、事務系その他48%）し、博士課程への進学率は10%でした。学部から修士／修士から博士への進学率はほぼ前年度と同様です。内定を得るにあたり学校推薦制度を利用した学生は学部で6%（前年11%）、修士は11%（前年17%）、就職者全体での平均値は10%で前年度より6ポイント減少しました。次ページに就職先企業一覧を示します。

3 | 2026年度（2026年9月、2027年3月）卒業・ 修了者就職活動状況

企業の採用意欲は依然として高い水準にあり、例年と同様に多くの学生が希望する企業から内々定を得ています。その一方で、多くの企業で選考がさらに早期化

する傾向がみられます。

5月中旬時点で、第一志望の企業から内々定を得た学生の割合は、昨年と同程度です。しかしその反面、まだ内々定を得られていない学生の支援も、ますます重要になっています。今後は就職担当委員と学生課キャリア支援オフィスが連携し、一人ひとりの状況に寄り添った丁寧な支援を継続してまいります。

4 | 2027年度（2027年9月、2028年3月）卒業・ 修了者向け就職支援

社会情勢の急速な変化や、それに伴う採用活動の早期化に対応するため、4月よりオンラインでの就職支援ガイダンスを開始しました。また5月からは就職活動を支援する各講座をオンデマンド配信し、学生が就職活動に向けた準備を着実に進められる環境を整えています。

一方で、私たちがもっとも重視しているのは、学生一人ひとりの本質的な「キャリア形成」です。昨今の就職活動では、AIツールの普及などにより効率化が進む反面、学生自身が「自分だけのキャリア軸」をどう描くかが問われています。そこで昨年に引き続き、「慶大理工学生のためのキャリアデザインラウンドテーブル」を実施いたします。本セミナーはロールモデルとなる卒業生との交流を通して、学生が自らの将来を深く考える契機となっています。

また、時代に即した情報発信の新たな取り組みとして、昨年よりInstagramによる発信を開始しました。学生が必要とする情報をタイムリーに届ける工夫を重ね、2026年6月現在フォロワー数は350名（昨年同時期は209名）に達し、認知・利用ともに順調に拡大しています。

2026年9月以降は、理工学部ならではの就職活動の特徴を解説する全体就職ガイダンスを実施するほか、昨年同様に他大学と共催した博士キャリア支援イベントや博士・修士・留学生向けのポスターセッションの実施も計画しています。

今後も変化の激しい社会において、学生がしっかりと自分のキャリアを切り拓いていけるよう、時代を捉えた多様な支援活動を展開してまいります。

表 2025年度（2025年9月、2026年3月）卒業・修了者の3名以上就職先（学部・修士合計数）

就 職 先	計
株式会社野村総合研究所	25
アクセンチュア株式会社	23
株式会社NTTデータグループ	22
ソニーグループ株式会社	22
日本アイ・ピー・エム株式会社	20
株式会社日立製作所	14
トヨタ自動車株式会社	12
PwCコンサルティング合同会社	12
株式会社NTTドコモ	10
合同会社デロイト トーマツ	10
日本電気株式会社	10
アビームコンサルティング株式会社	8
キヤノン株式会社	8
株式会社ペイカレント	8
本田技研工業株式会社	8
全日本空輸株式会社	7
慶應義塾	6
三菱電機株式会社	6
味の素株式会社	5
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社	5
東京瓦斯株式会社	5
パナソニックホールディングス株式会社	5
鹿島建設株式会社	4
清水建設株式会社	4
東海旅客鉄道株式会社	4
東京エレクトロン株式会社	4
株式会社東芝	4
日鉄ソリューションズ株式会社	4
東日本旅客鉄道株式会社	4

昨年との比較

- 上位8社：野村総合研究所（昨年16名）、アクセンチュア（昨年13名）、エヌ・ティ・ティ・データ（昨年27名）、ソニーグループ（昨年18名）、日本アイ・ピー・エム（昨年20名）、日立製作所（昨年12名）、トヨタ自動車（昨年12名）、PwC コンサルティング合同会社（昨年5名）、3名以上就職した企業への就職者数：356名、46%（昨年371名、52%）
- 公務員：15名（昨年7名）、中学・高校教員：1名（昨年2名）
- 博士課程修了者・単位取得退学者（計73名）の進路
修了者（57名）と単位取得退学者（16名）
- 就 職：58名（企業等：47名、大学等：11名、うち、在職ドクターの現職継続・復職：12名※）
- ※「現職」又は「復職」との学生届出による
- その他：11名
- 未報告：4名

就 職 先	計
富士フイルム株式会社	4
株式会社みずほ銀行	4
株式会社三菱総合研究所	4
株式会社三菱UFJ銀行	4
LINEヤフー株式会社	4
EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	3
SMBC日興証券株式会社	3
NTT株式会社	3
株式会社キーエンス	3
キオクシア株式会社	3
住友電気工業株式会社	3
双日株式会社	3
大成建設株式会社	3
中外製薬株式会社	3
東京海上日動火災保険株式会社	3
TOPPAN株式会社	3
株式会社豊田中央研究所	3
株式会社ニコン	3
野村證券株式会社	3
富士通株式会社	3
富士フイルムビジネスソリューション株式会社	3
ボッシュ株式会社	3
三菱重工業株式会社	3
株式会社村田製作所	3
その他	417
合計	773

就職者合計内訳：学部171名、修士602名
卒業・修了者数：学部919名、修士721名

留学生の進路

- 学部卒業者（5名）
- 就 職：2名（日本：1名、国外：1名）
 - 進 学：3名
- 修士修了者（62名）
- 就 職：25名（日本：18名、国外：7名）
 - 進 学：7名
 - その他：25名
 - 未報告：5名
- 博士修了者と単位取得退学者（16名）
- 就 職：11名（日本：9名、国外：2名）
 - その他：4名
 - 未報告：1名

- ◆小尾 晋之介、他
「アメリカ機械学会流体工学部門流れの可視化コンペティション3位」
受賞日：2025年7月27日
授賞者：米国機械学会流体工学部門
- ◆大槻 知明、Yue Yin、他
「2025 5th International Conference on Intelligent Communications and Computing (ICICC 2025), Best Paper Award」
受賞日：2025年8月16日
授賞者：2025 5th International Conference on Intelligent Communications and Computing (ICICC 2025)
- ◆小尾 晋之介、他
「第29回（2024年度）工学教育賞 業績部門」
受賞日：2025年8月27日
授賞者：公益社団法人 日本工学教育協会
- ◆萩原 将文
「日本知能情報ファジィ学会功績賞」
受賞日：2025年9月4日
授賞者：日本知能情報ファジィ学会
- ◆羽曾部 卓
「第39回 光化学協会賞」
受賞日：2025年9月5日
授賞者：光化学協会
- ◆河野 健二、他
「日本ソフトウェア科学会 解説論文賞」
受賞日：2025年9月5日
授賞者：日本ソフトウェア科学会
- ◆南 美穂子
「第30回 日本統計学会賞」
受賞日：2025年9月10日
授賞者：一般社団法人 日本統計学会
- ◆奥田 知明
「大気環境学会学術賞」
受賞日：2025年9月18日
授賞者：公益社団法人 大気環境学会
- ◆大松 亨介
「Mukaiyama Award」
受賞日：2025年9月25日
授賞者：公益社団法人 有機合成化学協会
- ◆長坂 雄次
「日本熱物性学会賞 名誉員顕彰」
受賞日：2025年10月9日
授賞者：日本熱物性学会
- ◆田口 良広
「日本熱物性学会賞 貢献賞」
受賞日：2025年10月9日
授賞者：日本熱物性学会
- ◆桂 誠一郎、他
「IIFES2025 大学・高専テクニカルアカデミー研究発表 最優秀賞」
受賞日：2025年11月21日
授賞者：一般社団法人 日本電機工業会，一般社団法人 日本電気制御技術工業会，一般社団法人 日本電気計測器工業会
- ◆山本 詠士
「分子シミュレーション学会学術賞」
受賞日：2025年11月25日
授賞者：分子シミュレーション学会

- ◆河野 健二
「2025年度コンピュータサイエンス領域功績賞」
受賞日：2025年12月1日
授賞者：一般社団法人 情報処理学会
- ◆川久保 俊、他
「2026 ASHRAE Technology Award 産業施設・新築部門の世界第1位およびAward of Engineering Excellence」
受賞日：2026年1月31日
授賞者：ASHRAE（米国暖房冷凍空調学会）
- ◆閻 紀旺、他
「第42回 2025年度 精密工学会沼田記念論文賞」
受賞日：2026年3月18日
授賞者：公益社団法人 精密工学会
- ◆杉本 高大
「第20回 日本物理学会若手奨励賞」
受賞日：2026年3月25日
授賞者：一般社団法人 日本物理学会
- ◆杉浦 裕太、雨坂 宇宙、他
「第41回電気通信普及財団賞 テレコム学際研究賞 奨励賞」
受賞日：2026年3月26日
授賞者：公益財団法人 電気通信普及財団
- ◆柿沼 康弘、他
「2025年度（令和7年度）日本機械学会賞（論文）」
受賞日：2026年4月23日
授賞者：一般社団法人 日本機械学会
- ◆高橋 大介
「2026年度研究助成金及び長瀬研究振興賞（有機化学）」
受賞日：2026年4月24日
授賞者：公益財団法人 長瀬科学技術振興財団
- ◆大槻 知明、他
「2nd rank of Task 2 of SAND (Speech Analysis for Neurodegenerative Diseases challenge)」
受賞日：2026年5月6日
授賞者：IEEE Signal Processing Society
- ◆川久保 俊、他
「第64回学会賞技術賞奨励賞」
受賞日：2026年5月14日
授賞者：公益社団法人 空気調和・衛生工学会
- ◆杉浦 裕太
「第25回 2025年度 船井学術賞」
受賞日：2026年5月23日
授賞者：公益財団法人 船井情報科学振興財団
- ◆大槻 知明、Kaloer, Anders
「IEEE International Conference on Communications (ICC) 2026 Best Paper Award」
受賞日：2026年5月26日
授賞者：IEEE Communications Society
- ◆野崎 貴裕、他
「2025年度 岩の力学連合会技術賞」
受賞日：2026年6月4日
授賞者：一般社団法人 岩の力学連合会
- ◆野崎 貴裕、他
「令和8年度 日本建設機械施工大賞 大賞部門優秀賞」
受賞日：2026年6月18日
授賞者：一般社団法人 日本建設機械施工協会

新任

●教授					
化学科	山崎 優一	量子物理化学 / 電子分光 / 化学反応動力学			
●准教授					
電気情報工学科	久野 大介	光通信 / 無線通信 / セマンティック通信	数理科学科	越川 皓永	整数論 / 数論幾何 / ラングランズ予想
物理情報工学科	明石 遼介	第一原理計算 / 超伝導 / 半導体	化学科	佐々木 大輔 (有期)	構造生物学
数理科学科	中島 秀太	確率論 / 普遍性 / KPZ 方程式	化学科	堀内 新之介 (有期)	超分子化学 / 錯体化学 / 有機金属化学
●専任講師					
物理情報工学科	岩崎 秀	無機物質科学 / 固体イオニクス / 圧力科学	化学科	相羽 俊彦 (有期)	ケミカルバイオロジー / 生物有機化学 / 天然物有機化学
生命情報学科	齋藤 駿	天然物化学 / ケミカルバイオロジー / 微生物学	化学科	深堀 信一 (有期)	レーザー化学 / 電子・分子イメージング / 強光子場科学
機械工学科	下山田 翔 (有期)	国際教育 / レジャー・ツーリズムスタディーズ	生命情報学科	岩間 清太郎 (有期)	神経科学 / 神経情報学 / 神経可塑性
●助教					
物理情報工学科	伏見 幹史	医用画像 / 脳神経画像 / 生体磁気計測	物理情報工学科	宮岡 佑弥 (有期)	制御工学
機械工学科	藤野 梨紗子 (有期)	大気環境	管理工学科	西島 光洋 (有期)	連続最適化 / 数理最適化 / オペレーションズ・リサーチ
電気情報工学科	中山 牧水 (有期)	アクティブマター	システムデザイン工学科	志方 鴻介 (有期)	制御工学 / 振動制御・活用 / ネットワークベース制御システム
応用化学科	稲葉 和樹 (有期)	糖質合成化学 / ケミカルバイオロジー	情報工学科	シン, アンドリユー (有期)	自然言語処理 / ニューロシンボリック AI / 画像認識
応用化学科	亀谷 優樹 (有期)	高分子化学	情報工学科	富田 寿子 (有期)	機械学習 / 画像・映像認識
物理情報工学科	高品 慶太郎 (有期)	スピントロニクス	生命情報学科	比企 佑介 (有期)	ネットワーク生物学 / システム生物学 / バイオインフォマティクス

昇格

●教授					
外国語・総合教育教室	ディル, ジョナサン	日本現代文学	管理工学科	大澤 博隆	ヒューマンエージェントインタラクション / 社会的知能 /SF プロトタイピング
機械工学科	加藤 健郎	デザイン科学 / 感性工学 / ロバスト設計	管理工学科	松浦 峻	応用統計学 / 多変量解析 / 統計的品質管理
応用化学科	佐藤 隆章	天然物化学 / 有機合成化学 / 新規合成法開発	数理科学科	服部 広大	微分幾何学 / 複素幾何学 / リッチ平坦多様体
応用化学科	高橋 大介	糖質科学 / 有機合成化学 / ケミカルバイオロジー	数理科学科	林 賢一	統計科学 / 医学統計学
物理情報工学科	太田 泰友	ナノフォトニクス / 量子情報処理 / トポロジカルフォトニクス	情報工学科	杉浦 裕太	フィジカルユーザインタフェース / ライフスタイルコンピューティング
●准教授					
応用化学科	磯 由樹	機能性ナノ材料 / 量子ドット / 蛍光体	管理工学科	中嶋 良介	インダストリアル・エンジニアリング / 作業改善 / 作業分析
応用化学科	小椋 章弘	有機合成化学 / 全合成 / 天然物	物理学科	長谷川 太郎	レーザー物理学 / 原子分子物理学 / 量子エレクトロニクス
●専任講師					
物理学科	藤井 瞬	光物性物理 / 光エレクトロニクス / ナノフォトニクス			

退職

		専門	在職期間	現職
●教授				
機械工学科	小尾 晋之介	流体工学 / 乱流モデル / 流体計測	1991/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授
応用化学科	今井 宏明	材料化学 / 生体模倣プロセス / 自己組織化	1993/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授
応用化学科	戸嶋 一敦	オーガニックサイエンス / ケミカルバイオロジー / グリーングリコケミストリー	1989/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授
物理情報工学科	藤谷 洋平	流体物理学	1997/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授
物理情報工学科	的場 正憲	強相関電子物理 / 固体物性 / 物質設計	1990/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師
管理工学科	栗田 治	都市工学 / 地域モデル / 施設立地分析	1992/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師
数理科学科	栗原 将人	整数論 / 岩澤理論 / 楕円曲線	2005/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授
化学科	中嶋 敦	ナノ物理化学 / ナノクラスター / ナノ機能材料	1989/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師
システムデザイン工学科	大森 浩充	制御工学 / 非線形工学 / 適応学習制御システム	1988/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師
情報工学科	斎藤 博昭	自然言語処理 / 音声言語理解 / 人工知能	1991/4/1 ～ 2026/3/31	商学部非常勤講師
情報工学科	藤代 一成	コンピュータグラフィックス / コンピュータ可視化	2009/4/1 ～ 2026/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師
●准教授				
化学科	河内 卓彌	有機金属化学 / 有機合成 / 均一系触媒反応	2007/4/1 ～ 2026/3/31	東京都立大学都市環境学部環境応用化学科
機械工学科	長谷川 愛 (有期)	スベキュラティブ・デザイン / アート&デザイン / ダイバーシティ&エクイティ&インクルージョン	2023/4/1 ～ 2026/3/31	
●専任講師				
電気情報工学科	唐 睿 (有期)	光集積回路 / 光演算	2025/10/1 ～ 2026/3/31	慶應義塾大学大学院理工学研究科 特任講師 (有期)
物理学科	杉本 高大 (有期)	凝縮系物理学 / 計算物理学 / 強相関電子系	2019/4/1 ～ 2026/3/31	北里大学理学部物理学科
●助教				
化学科	松丸 尊紀	有機合成化学 / ケミカルバイオロジー / 免疫調節	2020/4/1 ～ 2026/3/31	山梨大学生命環境学部 准教授
電気情報工学科	伊藤 皇聖 (有期)	ワイドギャップ半導体 / 光エネルギー変換	2024/4/1 ～ 2025/9/30	東京都立大学理学部化学科
物理情報工学科	谷口 真理 (有期)	スピントロニクス / 量子物性 / 角運動量輸送	2024/4/1 ～ 2026/3/31	ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
物理情報工学科	林 克哉 (有期)	イオン源プラズマ / イオンビーム工学 / 数値シミュレーション	2025/4/1 ～ 2026/3/31	核融合科学研究所 博士研究員
化学科	増渕 継之助 (有期)	物理化学 / ナノクラスター / ボトムアップ合成	2024/4/1 ～ 2026/3/31	
システムデザイン工学科	大西 史弥 (有期)	ロボティクス / 機械学習 / ソーシャルロボットナビゲーション	2025/4/1 ～ 2026/3/31	
情報工学科	史 小丹 (有期)	歩行者軌跡予測 / 歩行者間の社会的相互作用 / 時系列予測	2025/4/1 ～ 2025/8/31	

廣本 勝也 先生

慶應義塾大学名誉教授・廣本勝也先生のご逝去に接し、深い悲しみを覚えます。先生は、外国語・総合教育教室所属の英語教員として、イギリス文学、とりわけジョン・ミルトンを専門にされました。加えて、先生は、例えば、『トピック別英語表現の型と運用』というご著書に見られるように英語教育に関するお仕事も多くされました。私自身、慶應義塾大学文学部英米文学専攻で先生の講義を受け、ミルトンの『失楽園』を学ぶ機会に恵まれました。先生の留学直前ということもあり、壮大な叙事詩の世界を、原典に即しながらも生き生きと語られる先生のお姿は今も鮮明に記憶に残っています。先生は、静かに学問・教育に打ち込む方でしたので、あまり社交的に振る舞うことはされませんでした。実はとても優しいお人柄で、若手にも折に触れて気配りをされる方でした。ここに生前のご指導に深く感謝するとともに、先生のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(外国語・総合教育教室教授 小菅 隼人)

有賀 一郎 先生

名誉教授有賀一郎先生が2026年1月8日に95歳で逝去されました。先生は機械工学科、機械工学専攻の教授として永年にわたって研究、教育に尽力され、また、理工学部長、研究科委員長として学部、研究科の運営にもあたられました。本学を定年退職後は千葉工業大学に転籍され、そちらでも研究、教育に尽力されました。

ご専門は流体工学で多くの研究業績を残されており、日本機械学会、日本ガスタービン学会など多くの学会で研究活動をされ、会長も務められました。先生は大変に気さくな方で後輩であって専門分野の異なる私とも色々とお付き合いを頂き、学会の見学会、懇親旅行にもご一緒させて頂いたり、年末年始には築地の魚河岸に買い物にご一緒することも何度ありました。

長年にわたるご厚誼に感謝致しますとともに先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(名誉教授 川口 修)

平島 碩 先生

平島碩名誉教授が2025年8月2日に80歳で逝去されました。平島さん（公平を旨とするお人柄から「さん」づけで呼ばせていただいていたので本稿でもご容赦を）は、慶應普通部から塾高を経て1962年に工学部に入学、大学院で博士号取得後は応用化学科で2009年まで長年にわたり教育と研究に尽力されました。専門は、ガラスの電気物性と化学的な手法である「ゾルゲル法」によるセラミックスの合成。「人のやらないことをやる」という研究スタイルを貫かれ、一般には断熱材として使われる超多孔質体「エアロゲル」を遷移金属酸化物で作られた研究は世界的に高い評価を得ています。主体性を尊重した学生指導は時に厳しいものでしたが基本的にはやさしさにあふれ、平島さんだからこそ救われて社会に出られた学生も少なくないと感じています。

残された奥様の「もう少し一緒にいたかったのですが」という言葉から、家族を愛され家族に愛された平島さんの人柄が偲べれます。今頃は、空のかなたで紫煙をくゆらせながら、のんびり下界の喧騒を眺めているに違いありません。

(名誉教授 今井 宏明)

二瓶 栄輔 先生

二瓶栄輔准教授が2026年3月6日に63歳で逝去されました。先生は1990年に本塾大学理工学部応用化学科の助手に着任された後、1996年に誕生した物理情報工学科に移籍し、2017年より准教授として研究・教育に尽力されておりました。光ファイバやレンズ、発光素子などへの応用を目指した高分子光学を専門とされ、特に分布屈折率型素子内の光の伝搬挙動を解析する独自の光線追跡プログラムを駆使した研究を遂行されておりました。先生は応用化学科のご出身でありながら、まだパソコンがさほど普及していない時代から、コンピュータの構造やプログラム作成に関する知識が豊富でした。ご自身のコンピュータをより高速動作させるため、秋葉原で購入されたCPUやメモリを自らの手ではんだ付けし、動作を確認して喜ばれていた姿が今でも印象に残っています。先生には、同じ研究室の後輩、指導学生として、さらには同じ学科の教員として、公私にわたり多大なるご恩を賜りました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(物理情報工学科教授 石樽 崇明)

谷 温之 先生

名誉教授谷温之先生が2025年12月30日に79歳でご逝去されました。先生は東京工業大学大学院理工学研究科応用物理学専攻を修了された後、1977年に数理科学科の前身である工学部数理工学科に助手として着任され、2012年に定年退職されるまでの35年間にわたり研究・教育にご尽力されました。先生は圧縮性粘性流体の基礎方程式系に対する初期境界値問題の時間局所可解性を世界に先駆けて証明することにより一躍注目を浴び、その後も、空間1次元流に対する時間大域解の存在や自由境界問題の可解性について顕著な研究成果を挙げ、流体力学における数学解析の先駆者として活躍され続けました。先生はロシア流の数学をこよなく愛し、定期的にロシアを訪問されロシア人研究者との交流を深められていました。また、定年退職後も弟子の方々と数学とウォッカを楽しまれておりました。そのような先生のお人柄を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(数理科学科教授 井口 達雄)

山村 庄亮 先生

名誉教授 山村庄亮先生は、2025年8月10日に90歳で逝去されました。先生は、1981年工学部が理工学部に改組されるに伴い、新設される化学科のスタッフとして着任されました。慶應の有機化学に、自然界の生命現象に係る天然有機化合物を対象とする天然物化学の分野が加わったことになります。先生が担当された学部1年生必修の有機化学の講義では、複雑な構造を持つ有機化合物が次々に板書され、受講する学生が必死にノートに写す間に先生の講義はどんどん進行し、学生から悲鳴が上がったほどです。それでも、先生のお人柄と講義内容に興味を持った多くの学生が研究室を訪ねてきて、時間が経つのを忘れて先生の話に聞き入っておりました。代表的な「植物の運動に関する研究」をはじめとする膨大なご業績に裏打ちされた先生の話に魅入られた何人もの学生は卒業研究、大学院での研究を経て、アカデミック等の多くの分野に活躍の場を広げております。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

(名誉教授 西山 繁)

対称性から自然を読み解くー 保存則を保つ数値計算法

機械工学科
彭 林玉



機械工学という名前から、機械や装置の設計・製作を思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし、現代の機械工学は非常に幅広い分野を含んでいます。機械工学科でも、四力に加えデザイン・加工、さらには応用数学に関わる研究まで、多彩な研究が行われています。こうした多様性に富んだ環境の中で、私は対称性や幾何学といった応用数学的な視点から、自然現象や数値計算の研究に取り組んでいます。

自然界を支配する基本法則として、保存則というものがあります。皆さんが聞きなじみのある言葉としては「力学的エネルギー保存則」というものがあるかもしれませんが、保存則はそれだけではありません。20世紀初頭、数学者エミー・ネーターは、保存則が「対称性」と深く結び付いていることを明らかにしました。物理学には「自然界は常に最も無駄のない経路を選ぶ」という基本ルール（最小作用の原理）があります。ネーターの定理は、このルールの基準が、時間や空間を変化させても構造を変えない（＝対称性を持つ）とき、必ず何かが保存されることを示しました。例えば、時間をずらしてもこの基準が変わらない「時間並進対称性」はエネルギー保存則に対応し、空間内での回転に対して基準が変わらない「回転対称性」は角運動量保存則というものに対応します（図1）。こうした対称性と保存則の対応関係は、現代の理論物理学の基礎となっています。私の研究では、この考え方を数値計算へ応用することにも取り組んでいます。

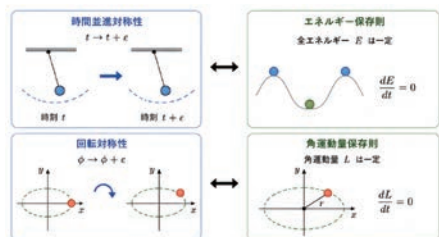


図1：ネーターの定理（対称性と保存則は一対一に対応する）

複雑な現象をコンピュータ上でシミュレーションする手法は、科学技術分野における研究や設計に不可欠な役割を果たしています。しかし、コンピュータは連続的な時間や空間を直接扱うことができないため、実際の計算では方程式を離散化して近似的に扱います。この離散化の過程で、連続系が本来備えている対称性や保存則が失われることがあり、本来存在しない振る舞いが生じる場合があります。そこで私たちは、「離散化した後も対称性と保存則を保つ数値計算」を実現するための数学的理論を構築しています。その中心となるのが、離散動標構 (Discrete Moving Frames) と呼ばれる幾何学的手法です。離散動標構は、問題の背後にある対称性を壊すことなく、離散化された系に対しても保存則を導く新しい枠組みを構築しました。この研究の意義は、単に美しい数学理論を作ることだけではありません。元の系が持つ幾何学的構造や保存則を計算機の中でも忠実に再現することで、より信頼性の高いシミュレーションが可能となり、ひいては現象をより深く理解することにもつながるのです。振り子や惑星の運動、弾性曲線など、さらには数値計算のアルゴリズムも、対称性という視点から眺めると共通の原理で結び付いています（図2）。そうした構造を見つけ出し、自然法則の背後にある秩序を理解し、その秩序を計算機の中でも正しく再現すること。それが私の研究の大きなテーマです。今後も対称性と幾何学の視点を通じて、数学と力学の新たな接点を切り拓いていきたいと考えています。

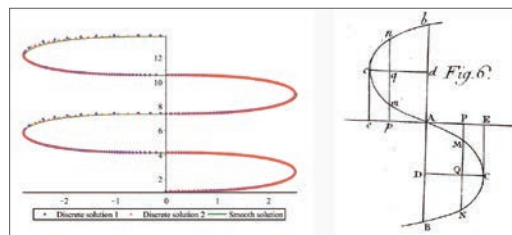


図2：オイラー弾性曲線の数値解(左)、オイラーの1744年スケッチ (右)

日吉は今

多彩な知の交流を目指して

日吉キャンパスでは10学部のうち主に7学部の塾生たちが、高等教育の基盤となる知的体力と、社会変容に柔軟に対応できる人間力を身につけるべく、学部・大学の垣根を越えて日々様々な活動に取り組んでいます。塾生を指導する教員もまた専門分野を越えて繋がり、「今」が求める知とは何かを常に問い続けています。今年度か

外国語・総合教育教室 岩波 敦子

ら理工学部日吉教員の多くが、大学院理工学研究科「人間・社会システム情報科学専攻 オープンサイエンスカリキュラム」に所属することになりました。人間性とは何かが問われる時代に、多角的で多彩な知見の交流を通じて、高い専門性と領域横断的思考力を持ち、俯瞰する視野から未来を切り拓く次世代の育成を共に目指しています。

第27回矢上祭 開催に寄せて

今年も矢上祭の季節がやってまいりました。

日頃より矢上祭実行委員会の活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

第27回となる本年度は「stargazer」をテーマに、9月19日（土）・20日（日）に開催いたします。

これまで矢上祭で積み重ねてきたものを磨き上げ、星空を見上げるような心躍る体験を皆様にお届けできる

※詳細については、矢上祭ホームページ (<https://yagamifes.com/>) をご覧ください。

KEIO TECHNO-MALL 2026（第27回 慶應科学技術展）の開催について

理工学部・理工学研究科で日々生まれる最先端の研究成果が一堂に会する「KEIO TECHNO-MALL」を、今年も開催いたします。

今年のテーマは「知と技術が交わり未来を動かすーAI時代を拓く慶應の実学ー」。当日は、実物や実演にこだわった展示を中心に、多彩なプログラムを予定しております。

よう、委員一同取り組んでおります。

本年度は新たに教授による模擬講義を実施いたします。また、科学実験などの理工学部ならではの企画もお届けいたします。ライブステージや模擬店なども実施予定です。ウェブサイト・公式アプリも、より便利にご利用いただけるよう改良を重ねております。

委員一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

※詳細については、KLLホームページ (<https://www.kll.keio.ac.jp/ktm/>) をご覧ください。

理工学部報 Faculty of Science and Technology News

学びの“イマ”を伝える理工学部報

from here vol.75

2026年9月18日発行

発行者 千葉 徹
編集 理工学部報編集委員会
責任者 山本 崇史

発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
電話 (045)566-1454(ダイヤルイン)
印刷所 株式会社 写真化学



バックナンバー
はこちらから



冊子タイトル『from here』に込めた思い

学びの“イマ”を伝える理工学部報

from here

時代や環境が変わっても、理工学部というこの場所が、私たちの原点であるということ。そしてここからさまざまな変化に立ち向かい、新しい価値を生み出していく。そんな決意とメッセージを込めて『from here』と名付けました。